



まいにちかいえん
～毎日開園 だれでも気軽に来られる動物園～

2017年 2月号

No. 58

ずー ZOOっといっしょ

とりどし

酉年にちなみ、飼育している鳥たちを紹介します

ニホンキジ

日本の『^{こくちょう}国鳥』に指定されているニホンキジ。

日本にのみ生息し、本州、四国、九州の草原や田畑にす棲み、昆虫や木の实などを食べます。オスはメスにアピールするため鮮やかな色なのに対して、メスは子育て中に敵から見つかりにくくするため全身が茶色の保護色をしており、当園ではメスのみ見ることができます。

昔から人里近くで一年を通して見ることができる身近な鳥であることや、食べると美味しいなどの理由で『国鳥』に選ばれました。国鳥はいろいろな国でも定めていますが、国鳥が狩猟対象になっているのは日本のみとなっています。



フクロウ



かわいらしい顔で人気者のフクロウは夜行性で、とても優秀なハンターです。暗い中でも丸い顔は^{ゆうしゅう}優秀なハンターです。暗い中でも丸い顔はパラボラアンテナのような役割をして周りの音を集めます。耳の位置はわずかに上下にずれており、立体的に音をとらえ、270度近く回る首と大きな目でネズミなどの獲物^{えもの}をつけます。

翼には音が出ない仕組みがあり、羽の音を出さずに飛び、獲物に気付かれず、すばやく捕らえます。当園では現在4羽飼育しています。

トビ

「ピーヒョロロ」と鳴き、身近な猛禽類として知られている「トビ」。「トンビ」と呼ばれることもあります。野生では主に小動物やしがいの死骸を食べています。頭と目が良く、お弁当など、時には人が食べているものを奪って食べることもあります。当園では馬肉や鶏肉などを与えています。



ツルの仲間

当園ではクロツル、アネハヅル、ホオジロカンムリツルの3種類を飼育しています。

- クロツル 体は灰色で頭頂部は赤く、頭と首の前が黒く、後ろは白くなっています。渡り鳥であり、日本にも年に数羽やってきます。
- アネハヅル 眼の後ろから頭にかけての白い羽が特徴です。ツルの仲間の中で最も小さいが飛ぶ力が強く、ヒマラヤ山脈を飛び越えていく群れもあります。
- ホオジロカンムリツル 頬の部分が白く、頭の上に黄色い冠のような羽毛を持ち、喉には赤い肉垂があります。繁殖期になると頬の白い部分も赤く染まります。



クロツル



アネハヅル



ホオジロカンムリツル